第 107 回　17・18 世紀のヨーロッパ思想②

1　17・18 世紀のヨーロッパにおける哲学

・17・18 世紀のヨーロッパ哲学は、イギリスで発展した（　　）と、
ヨーロッパ大陸側で発展した（　　）にわけられる。

＜イギリス経験論＞

・経験論は、たくさんの事実の中から観察や経験によって正しい結論を導き出そうとする（　　）を用いて、真理に到達しようとする考えである。

（　　）…偏見を取り除き事実を観察することで、真理に到達できると説いた。経験論の基礎を確立した。著書『新オルガヌム』。

ロック　…人間の心は白紙（タブラ=ラサ）のようであると説いた

ヒューム　…イギリスの哲学者。経験論から、懐疑論にいたった。

フランシス=ベーコン

中世のスコラ学者であるロジャー=ベーコンと間違えないように。冷凍技術の実験で、雪の日に外に出ていたため、風邪をひいて死んだ。

ロック

また登場。ずいぶんと多才な人である。
生まれた時、「魂は白紙」だということは、「生まれ持った理性はない！」ということを言っているわけだ。

ヒューム

考えとしては、古代ギリシアのヘラクレイトスや、仏教の開祖ブッダに近いような印象を受ける。全ての存在を疑った。

＜大陸合理論＞

・合理論は、いくつかの前提から他の正しい結論を導き出そうとする（　　）を用いて、真理に到達しようとする考えである。

（　　）…フランスの哲学者で近代哲学の父。著書『　　』。
「　　」と述べ、全ての経験を排除した上で、どうしても疑えない真理に到達しようとした。

（　　）…フランスの哲学者。『　　（瞑想録）』で「人間は考える葦である」と述べ、「考える」ことに人間存在の本質を見た。

（　　）…オランダの哲学者。自然を神と同一視する「汎神論」を説いた。

（　　）…ドイツ人。「単子（モナド）論」を主張。微積分法を確立した。

（　　）…ドイツの哲学者。イギリス経験論と大陸合理論の統合を試み、（　　）へと道を開いた。
著書『　　』、『永遠の平和のために』。

デカルト

哲学史上にそびえる巨人。
信仰ではなく、人間の持つ自然の光（理性）により真理を探究しようとした。

パスカル

「クレオパトラの鼻がもう少し低かったら、世界の全ての様相が変わっていただろう」という言葉も有名。

スピノザ

著書『エチカ』の中で、「神即自然」と説いた。ウパニシャッド哲学など東洋思想との親和性を感じるが、当時は無神論として異端視された。

ライプニッツ

微積分法の確立がニュートンとどちらが早かったかについては、長く論争があった。

2　17・18 世紀のヨーロッパにおける経済思想

・（　　）とは、農業を盛んにすることで国を富ませる考えである。
　→それまでの重商主義に対抗し、国家が経済に介入しない自由放任を主張した。
　　※（　　）という言葉で知られ、古典派経済学に影響を与えた。

＜重農主義＞

（　　）…元々はルイ 15 世の侍医で、後に『　　』を書いた。
（　　）…フランス革命直前にルイ 16 世の財務総監を務めた。

＜古典派経済学（自由主義経済学）＞

（　　）…経済の自由放任と自由貿易を主張。著書『　　』。

3　17・18 世紀のヨーロッパにおける自然科学

・17 世紀から 18 世紀のヨーロッパでは、観察や実験を重要視し、科学が飛躍的に発展する（　　）が起きた。
　→人間と社会はよりよい方向に向かって進歩を続けるという思想が生まれた。
・イギリス王立協会、フランス科学アカデミー、ベルリン科学アカデミーなど、各地に科学アカデミーが設立された。

（　　）…イギリスの物理学者、化学者。「近代科学の父」とされる。
　ホイヘンス　…オランダの天文学者、数学者。光の波動説を唱えた。
（　　）…イギリスの数学者、物理学者、最後の錬金術師。
　「　　」の発見など、数学、物理学で、多大な業績を残した。著書『　　』。
（　　）…フランスの化学者で、質量保存の法則を発見した。

ボイル

ボイルの法則とは、「温度が一定の場合、気体の体積は圧力に反比例する」というものである。彼の研究は錬金術の成果の蓄積の上に進められた。

ニュートン

近代物理学の祖であるが、錬金術師でもあった。17 世紀のペスト流行で大学が閉鎖となったわずか 1 年半の間に、万有引力の法則や微積分法を発見した。

ラヴォワジェと妻

実験器具を買うために、税金を集める仕事をしていたことがあった。それが理由で、フランス革命の際、ギロチン送りにされた。

（　　）…フランスの天文学者。宇宙進化論を唱えた。
（　　）…スウェーデンの博物学者で、分類学の父とされる。
　生物を、ラテン語の単語 2 語で命名する方法を体系づけた。
（　　）…イギリスの医者。血液が体を循環することを発見した。
（　　）…天然痘を予防するため、1796 年、「　　」を発明した。

リンネ

動物や植物の学名には、命名者の名前がつくが、L.とある場合はリンネが命名したことを示す。

ハーヴェー

ジェームズ 1 世やチャールズ 1 世の侍医を務めていたため、革命では王党派だった。「心臓はポンプにすぎない！」

ジェンナーの種痘

ジェンナーは、牛痘を接種することで、天然痘の予防に成功した。しかし「牛痘を接種することで牛になる」という迷信もあり、普及には時間がかかった。